

## 福岡県飯塚市における MIM の取組

### I 飯塚市における教育環境・状況

#### 1 飯塚市における基礎情報（平成 26 年 5 月 1 日現在，人口を除く）

- (1) 人口 131,178 名
- (2) 学校数 市立小学校 22 校， 市立中学校 10 校
- (3) 児童・生徒数 小学校 6,556 名， 中学校 3,238 名
- (4) 通級指導教室および特別支援学級の設置状況

##### ① 小学校

###### 通級指導教室

LD・ADHD 2 校， 2 教室， 27 名

###### 特別支援学級

知的障害 17 校， 19 学級， 83 名

自閉症・情緒障害 9 校， 9 学級， 2 名

肢体不自由 2 校， 2 学級， 2 名

##### ② 中学校

###### 通級指導教室

LD・ADHD 1 校， 1 教室， 7 名

###### 特別支援学級

知的障害 10 校， 11 学級， 37 名

自閉症・情緒障害 7 校， 7 学級， 21 名

肢体不自由 2 校， 2 学級， 2 名

- (5) 特別支援学校の設置状況：なし

#### 2 飯塚市における発達障害関連の施策

##### (1) 文部科学省の委託事業

「発達障害の可能性のある児童生徒に対する早期支援・教職員の専門性向上事業」

実施期間：平成 26 年度～27 年度

概要：全小学校，1 年生を対象に，多層指導モデル（MIM）の実施。通常の学級において，異なる学力層に応じた指導を，学習面，特に「読みの力」に焦点を当て行う。特別な教育的ニーズのある子どもに対して，MIM の指導を中心に，それらの子どもが理解しやすいよう配慮した授業等，指導方法の工夫改善を行う。発達障がいの可能性のある児童に対する早期支援の在り方について研究事業を行う。なお，多層指導モデル MIM による指導は，本市においては，平成 23 年度から全小学校 22 校で実施している。

- (2) 県の委託事業：なし

- (3) 市独自の事業：なし

### 3 飯塚市における学力向上関連の施策

- (1) 文部科学省の委託事業：なし
- (2) 県の委託事業：なし
- (3) 市独自の事業

#### ①「飯塚市学力向上推進事業」

実施期間：平成24年度から

概要：モデル校として小学校1校，中学校2校を指定し，小学校では全学年で立命館大学教育開発支援機構教授・立命館小学校校長顧問陰山英男氏の奨励する教材，中学校は第1学年全員に大阪府教育委員・大阪樟蔭女子大学講師・国際基礎教育事業支援委員会委員の小河勝氏の奨励する教材を使って徹底反復学習に取り組み，学力向上を図る。これらは，児童生徒の基礎基本の定着のための指導法であり，本市の学力向上施策のひとつである。朝の活動，補充学習，家庭学習等で，100マス計算，音読，速読，漢字等を行い，基礎・基本の定着を図る。繰り返しプリント学習を行う。小学校は「陰山メソッド」，中学校は「小河式プリント」を中心とし，家庭との連携した繰り返し徹底反復学習を行う。徹底反復学習は，児童生徒に徹底反復させる側面と，学校全体で組織として教師が児童・生徒のつまづきを把握し，「徹底的に」学力向上に取り組む側面とがある。その取組状況について年間3回の検証委員会において学力向上アドバイザーである陰山氏，小河氏に直接指導助言を受け，指導の在り方の改善策を図る。

#### ②「飯塚市教育員会研究指定・委嘱」

実施期間：毎年度

概要：小学校5校，中学校2校を指定。研究校は，本市教育の研究に寄与する教育研究を行い，授業公開，研究発表会等研究成果を公表する。

#### ③「知識構成型ジグソー法による協調学習」

実施期間：平成23年度から

概要：東京大学発教育支援コンソーシアム推進機構副機構長の三宅なほみ教授が提唱する授業方法である。学習者一人一人の理解の仕方の多様性を統合して，学習者同士の対話を通じて理解を深めようとする仕組みであり，基本的なモデル例は次の通りである。

- ア 問題（学習課題）を投げかける。まず自力で答えられるか考える。
- イ 児童，生徒を3つのグループ（A，B，C）に分け，それぞれのグループにアの課題解決のヒントとなる，異なる学習資料を示し，他人に説明できるくらい十分に理解させる（エキスパート活動）。
- ウ A，B，Cのグループから一人ずつ集めた三人組の班を作る。各班では各自がエキスパート活動で学習した内容を自分の言葉で説明し，また，説明を聞いて質疑応答を交わすことで，理解を「腑に落ちる」ような深いものとする（ジグソー活動）。
- エ 各班で話し合った内容について，全体で発表し，意見交換する（クロスト

ーク)。ここでも新たな「気づき」が期待される。

オ 最後に改めて自力でアの課題に取り組み、学んだ内容を意識的に確認する。

東京大学発教育支援コンソーシアム推進機構（CoREF）では、飯塚市のみならず、広島県安芸太田市、大分県九重町、埼玉県教育委員会をはじめ日本全国各地の自治体との連携を通じ、小・中学校及び高等学校において協調学習により、児童生徒の主体的な授業参加を促し学びを深める多くの授業実践を行っている。

④ 「飯塚市小中一貫教育研究事業」

実施期間：平成 17 年度から。9 年間活動プランは平成 26 年度から。

概要：市内全中学校区を指定。各校区の教育目標を達成するための小中一貫 9 年間活動プランを作成し、義務教育 9 年間を見通した効果的な教育の在り方について研究する。小中一貫コーディネーターが中心となり定期的に協議会や合同研修会を開催し、小中一貫教育を推進している。

⑤ 「学力向上フォーラムの実施」

実施期間：平成 24 年度から。

概要：保護者対象に、専門家を招聘し、二十一世紀型学力を育てる家庭の役割や協調学習についての理解を図るために講演会を実施する。

#### 4 発達障害のある子ども等への支援のリソース

##### (1) 支援員や巡回相談等の人的支援

###### ① 市町村任用講師配置等の人的整備

概要：

- ・小学校 2～4 年生の学級を 35 人以下で編成し、増えた学級に対して 1 名の常勤講師を配置。（平成 26 年度は、12 校で 13 クラスに対し、13 名を配置）
- ・中学校 1 年生の学級を 35 人以下で編成し、増えた学校に対して県定数表により算定した数の常勤講師を配置。（平成 26 年度は、5 校 5 クラスに対し、6 名を配置）
- ・特別支援教育支援員の配置。（平成 26 年度は、小学校 20 校に 34 名、中学校 10 校に 15 名を配置）。無資格者の任用は 1 年間、有資格者の任用は最長 3 年間。有資格者の範囲については、教員免許、保育士、看護師、介護関係の資格の所持。

###### ② スクールカウンセラー・スクールソーシャルワーカーを配置

概要：

- ・市契約のスクールカウンセラー（4 名）とスクールソーシャルワーカー（1 名）が配置されているため、必要に応じて専門的見地からの検討・対応が可能。
- ・不安などの情緒的混乱などについては、スクールカウンセラーの派遣を行う。
- ・主に家庭に起因するものについては、スクールソーシャルワーカーや要保護児童連絡協議会などの関係機関と連携する。

※スクールカウンセラーは、生徒・保護者へのカウンセリングとともに、不登校対策委員会または、プロジェクトチームに所属し、指導に対して専門的な助言を行う。プロジェクトチームとは、学級担任、学年主任、部活動顧問、教科担任、養護教諭、教務主任、スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカー等で、児童生徒にかかわりの深い教師数名や関係機関の担当者等で編成され、日常的な指導や援助に対してサポートすることを目的としている。

(2) 教材等の提供といった物的支援

特記事項なし

(3) 公的な相談・指導機関

特記事項なし

(4) その他

適応指導教室の設置

概要：不登校児童生徒の自立を促し、学校生活への適応指導を行い学校復帰を目指すための適応指導教室「コスモス」の設置。不登校で傷ついた心を癒すため、小集団単位での生活を基本とし、教科学習や体験活動、教師や生徒との会話、また遊びの中から集団や社会への適応を図り、元気やエネルギーを回復させる。体験活動を通して、対人関係調整能力を培い、学校復帰を目指す。「文化発表会」を通して、表現力や計画性、実行力、コミュニケーション力、企画力を付ける。

## II 飯塚市におけるMIMの取組

### 1 MIMに取り組むことになった経緯

飯塚市教育委員会では、未来の飯塚市を担う「かしこく」「やさしく」「たくましい」子どもの育成を目指している。また、飯塚市教育プランを策定し、学力・体力・耐性等「生きる力」を育む教育の充実を目指して取り組んでいる。

特別支援教育については、発達障がい（学習障がい、注意欠陥多動性障がい）のある児童生徒を対象に通級指導教室を開設し、現在小学校2校、中学校1校に設置している。同教室に通っている児童生徒は年々増加傾向にある。

それらの児童生徒に「生きる力」、特に基礎学力をつける基盤として、「読みの力」が大きく影響している。その中で、小学校第1学年といった入門期の指導で特に習得が困難といわれる「特殊音節」については、その重要性は認識しつつも、発達障がいのある子ども等にとって大きな課題の一つである。このように、読みの入門期の「特殊音節」でつまづいた場合、国語の学習のみならず、他の学習、さらには、日常の生活にまで支障をきたすことは十分に考えられる。また、つまづきの深刻化に伴い、勉強がわからないことに起因する自尊感情ややる気の低下といった二次的障がいへと発展する。

そこで、早期の段階で、子どもがつまづく前、またはつまづきが深刻化する前に、指導・支援を行うことをめざした多層指導モデル「MIM」を採り入れることとなった。

この背景には、既に平成 19 年度より MIM を学校内で実践し、成果を上げている市内の小学校があったこと、それが近隣の小学校にも広がりつつあったこと、こうした成果が校長会で話題に上ったことがあった。

このように、当初は、各学校での取組として実践されていたが、その成果が認められ、平成 23 年度より 22 校の小学校全てで MIM を実践している。

## 2 MIM に関する実施計画

- (1) 平成 23 年度より 市内全 22 小学校で MIM を実践
- (2) 平成 26 年度 文部科学省より「発達障害の可能性のある児童生徒に対する早期支援・教職員の専門性向上事業」委託  
※平成 19 年度より市内小学校で独自に MIM を実践している学校がみられた。

### 3-1 MIM に関する事業における行政（教育委員会等）の具体的役割

- (1) 発達障がい支援アドバイザー等専門家との連携
  - ・市内全小学校へ出向き、発達障がいの可能性のある児童生徒の早期支援の在り方や MIM の具体的な指導を行い、本事業の推進に努める発達障がい支援アドバイザーの指名
  - ・アドバイザーの指導助言に基づいた施策立案
  - ・アドバイザーとのアセスメント（MIM-PM および個別の配慮計画等）データの共有を行うことによる効果的な支援体制の構築
  - ・発達障がい支援アドバイザー等専門家の活用による MIM 指導者研修会における講話、演習等の計画・実施
  - ・アドバイザーが本事業に係る業務を円滑に遂行できるよう、十分に連携を図り支援をするとともに、指導方法または教材の改善・開発等を研究する発達障がい支援コーディネーター（元教員である嘱託職員）とも連携
  - ・公開授業および実践交流を通しての協議の場の確保
  - ・MIM 指導に係る教材の整備
    - ※ 現在は、発達障がい支援アドバイザーは、MIM についての実践実績を積んだ通級指導教室の教員
- (2) MIM 担当者研修会の実施
  - ・MIM 担当者（1 年担任または指導方法工夫改善教員が担当）への指導方法の周知徹底
  - ・校内支援体制整備の構築（管理職に向けての指導助言）
  - ・指導の効果を確かめるアセスメント MIM-PM のデータおよび個別の配慮計画の集約と結果のフィードバック。結果に基づいた指導助言
- (3) アセスメント MIM-PM のデータ入力および活用のための近隣小学校で組織したブロック研修会の実施
  - ブロックは、近隣小学校で組織したもので、中学校区は 10 あるが、5 ブロックで組織。26 年度は、校区を崩して距離を重視しブロックを作ったが、小中一貫教育での研修とも関連させたいという声もあり、今後、よりブロック研修会・協議会を

機能させるためにも、中学校区は崩さずに1～2中学校区で組織しなおそうと現在思案中である。

- (4) 教職員だけでなく、保護者、一般市民対象の「飯塚市発達障がい研修会」の開催
- (5) 保護者等向けの多層指導モデル MIM 啓発リーフレット作成（資料1，2参照）
- (6) 関係機関等（国立特別支援教育総合研究所，こども発達支援センター，スクールカウンセラー，ビジョントレーニングインストラクター等）との連携
- (7) 発達障がい支援アドバイザーによる各小学校への巡回指導の設定
  - ・授業参観及び指導助言
  - ・教材活用の啓発及び活用状況調査
- (8) 教育課程上での位置付けや指導方法の確立

教育課程のどこに MIM の指導が関連しているのか資料を提供するとともに，授業実践の交流を通してよりよい指導方法を市内に広める。
- (9) 「読みの力」定着の検証のための読書力診断検査の実施
- (10) 発達障がいの可能性のある児童生徒の早期支援指導重点校の指定
  - ・教材の開発や作成，その支援
  - ・早期支援の在り方に関する情報発信

### 3-2 MIM に関する事業における指定校・重点校の具体的役割

#### (1) 【指定校】飯塚市内全小学校（22校）

#### 【重点校】飯塚市立飯塚小学校

##### ① 目的・目標

通常の学級において、「読みの力」に関して特別な教育的ニーズのある子どもに対し，MIM の指導を中心に，理解しやすいよう配慮した授業等，指導方法の工夫改善，発達障がいの可能性のある児童に対する早期支援の在り方を究明する。

##### ② 学習面や行動面で何らかの困難を示す児童生徒を含むすべての児童生徒が理解しやすいよう配慮した授業等，指導方法の改善

- ・動作化や視覚化による指導
- ・教材の効果的な活用や教室環境整備
- ・補充指導等の学習面での配慮や視覚的・聴覚的な刺激の軽減等の行動面での配慮
- ・アセスメントの実施（毎月末）による，配慮を要する児童の把握とその実態に応じた指導
- ・校内支援体制の整備及び職員研修の実施

##### ③ 適切な実態把握等による早期支援の実施

- ・アセスメントの実施と自校でのデータ処理を行うことによる，結果に基づいた速やかな個別の配慮の実施
- ・個別の配慮計画を基にした授業を通じた交流（具体的にどのような支援を必要とする子であるのか，個別の配慮計画を活用して授業協議会を行ったり，児童の実態について説明する際に個別の配慮計画を基に説明したりする）

- ・ 特別に配慮を要する児童の把握と校内での共通理解
- ・ 教育相談の実施
- ・ 関係機関との連携やスクールカウンセラーの活用

(2) 【重点校】 飯塚市立飯塚小学校

① 目的・目標

通常の学級において、「読みの力」に関して特別な教育的ニーズのある子どもに対し、MIIM の指導を中心に、理解しやすいよう配慮した授業等、指導方法の工夫改善、発達障がいの可能性のある児童に対する早期支援の在り方を究明するとともに各小学校へ発信および指導助言を行う。

② 学習面や行動面で何らかの困難を示す児童生徒を含む全ての児童生徒が理解しやすいよう配慮した授業等、指導方法の改善

- ・ 通級指導教室での指導知見に基づいた個別の指導や配慮方法についての発信
- ・ アセスメントで明らかになった早期支援を要する児童の個別の配慮や指導の在り方についての発信や各校への指導助言

③ 適切な実態把握等による早期支援の実施

- ・ アセスメントの実施と結果に応じた個別の配慮
- ・ 特別に配慮を要する児童の把握と校内での共通理解
- ・ 実践後の手立ての見直し（個別配慮の PDCA 化）
- ・ 教育相談の実施
- ・ 実践のデータベース化および子どもの実態別、個別の配慮方法のフローチャート化
- ・ 関係機関との連携やスクールカウンセラーの活用（子どもの見取りと授業での具体的支援）
- ・ 就学前の気になる子どもの情報をも基にした入学直後からの支援の検討

#### 4 MIM に関する研修

(1) 平成 23 年度

① 第 1 回飯塚市立小学校 MIM 指導者研修会

実施日時：平成 23 年 5 月 12 日（木）

対象者：飯塚市立小学校教頭及び第 1 学年担任（1 名）

内容：

時 程	研 修 内 容
14：10 }	〈講話〉『 読みの学習が子どもを変える 』 ～通常の学級における「MIM 多層指導モデル」がめざすもの～
15：10	国立特別支援教育総合研究所 主任研究員 海津亜希子 氏
15：20 }	〈演習〉『 特殊音節の指導について 』 国立特別支援教育総合研究所 主任研究員 海津亜希子 氏
16：20	飯塚市立飯塚小学校 教諭 通級指導教室担当 杉本陽子 氏

16:20	〈質疑応答〉 国立特別支援教育総合研究所 主任研究員 海津亜希子 氏 飯塚市立飯塚小学校 教諭 通級指導教室担当 杉本陽子 氏
16:50	

② 第2回飯塚市立小学校MIM指導者研修会

実施日時：平成23年8月8日（月）

対象者：第1回飯塚市立小学校MIM指導者研修会を受講した教諭および講師  
教頭および飯塚市立小学校第1学年担任で希望する者

内容：

時程	研修内容
10:10 } 12:00	〈講話〉『読みの学習が子どもを変える：先生も子どもも楽しい授業』 ～1stステージ指導，MIM-PMの実施を振り返って～ 国立特別支援教育総合研究所 主任研究員 海津亜希子 氏
13:00 } 14:30	〈演習〉『2ndステージおよび3rdステージ指導について』 国立特別支援教育総合研究所 主任研究員 海津亜希子 氏 飯塚市立飯塚小学校 教諭 通級指導教室担当 杉本陽子 氏
14:45 } 16:30	〈協議〉『MIMをしてきて感じたことを共有しよう：2学期に向けて』 ① グループ ② 全体
16:30 } 16:50	〈質疑応答〉 国立特別支援教育総合研究所 主任研究員 海津亜希子 氏 飯塚市立飯塚小学校 教諭 通級指導教室担当 杉本陽子 氏

③ 飯塚市立小学校MIM実践交流会（第3回指導者研修会）

実施日時：平成23年11月22日（火）

対象者：飯塚市立小学校第1学年担任，飯塚市立小学校で希望する者

内容：

時程	研修内容
15:10 } 16:10	〈実践発表〉 『校内推進体制について』 飯塚市立目尾小学校 教頭 垂水陽子 『学級での取り組み』 飯塚市立目尾小学校 教諭 伊東佳子 『学年での取り組み』 飯塚市立若菜小学校 指導教諭 江藤涼子 『TT関わった取り組み』 飯塚市立潤野小学校 教諭 川原田佳世
16:10 } 16:30	〈講話〉 『飯塚市立小学校MIM実践について』 国立特別支援教育総合研究所 主任研究員 海津亜希子 氏
16:30 } 16:50	〈質疑応答〉 国立特別支援教育総合研究所 主任研究員 海津亜希子 氏 飯塚市立飯塚小学校 教諭 通級指導教室担当 杉本陽子 氏



④ 第4回飯塚市立小学校 MIM 指導者研修会

実施日時：平成 24 年 1 月 6 日（金）

対象者：飯塚市立小学校第 1 学年担任，飯塚市立小学校で希望する者  
内容：

時 程	研 修 内 容
10:10 } 10:55	<p>〈実践発表〉</p> <p>飯塚市立穎田小学校 教諭 西森千香子 飯塚市立飯塚東小学校 教諭 上村富士子 飯塚市立庄内小学校 教諭 倉持涼子</p>
10:55 } 12:00	<p>〈講話Ⅰ〉 『飯塚市立小学校 MIM プロジェクト 2nd ステージ指導を振り返って』 国立特別支援教育総合研究所 主任研究員 海津亜希子 氏</p> <p>〈協議Ⅰ〉 『各学校における 2nd ステージの成果について』 ① グループ協議（異なる学校の先生同士で） ② 全体協議</p>
13:00 } 14:35	<p>〈講話Ⅱ〉 『3rd ステージ指導に向けて』 国立特別支援教育総合研究所 主任研究員 海津亜希子 氏</p> <p>〈講話Ⅲ〉 『3rd ステージ指導の実際』 飯塚市立飯塚小学校 教諭 通級指導教室担当 杉本陽子 氏</p>
14:45 } 16:45	<p>〈協議Ⅱ〉 『3rd ステージ指導を充実したものにするために』 ① グループ協議（同じ学校の先生同士で） ② 全体協議</p> <p>〈講話Ⅳ〉『飯塚市 MIM 事例集をまとめるにあたって』 ① 事例集の趣旨の説明 国立特別支援教育総合研究所 主任研究員 海津亜希子 氏 ② 学校ごとに協議</p>
16:45 } 16:55	<p>〈質疑応答〉 16:45-16:55 国立特別支援教育総合研究所 主任研究員 海津亜希子 氏 飯塚市立飯塚小学校 教諭 通級指導教室担当 杉本陽子 氏</p>

(2) 平成24年度

① 第1回飯塚市立小学校MIM指導者研修会

実施日時：平成24年4月23日(水)

対象者：飯塚市内小学校教頭で平成23年度第1回飯塚市立小学校MIM指導者研修会に参加していない者、第1学年担任および希望者(各学校2名以上)

内容：

時 程	研 修 内 容
14:10 }	<講話> 『MIMをはじめよう』
15:15	飯塚市立飯塚小学校 通級指導教室担当 教諭 杉本 陽子 氏
15:25 }	<演習> 『MIMの指導の実際(アセスメントと1stステージ指導)』
16:40	飯塚市立飯塚小学校 通級指導教室担当 教諭 杉本 陽子 氏

② 第2回飯塚市立小学校MIM指導者研修会

実施日時：平成24年8月8日(水)

対象者：飯塚市立小学校第1学年担任(1名以上)および参加を希望する者(各学校2名以上)

内容：

時 程	研 修 内 容
10:10 }	<講話> 『通常の学級における多層指導モデルMIM』
12:00	～1学期1stステージ指導を振り返って2学期につなげよう～ 国立特別支援教育総合研究所 主任研究員 海津亜希子 氏
13:00 }	<演習> 『2ndステージの具体的な指導』
14:30	国立特別支援教育総合研究所 主任研究員 海津亜希子 氏 飯塚市立飯塚小学校 通級指導教室担当 教諭 杉本 陽子 氏
14:45 }	<協議>
16:50	(1)『MIMをしてきて感じたことを共有しよう：2学期に向けて』 (2)『今日の研修を受け、2学期からの計画を立てよう』

※Web研修との併用

③ 3回飯塚市立小学校MIM指導者研修会

実施日時：平成25年1月7日(月)

対象者：飯塚市立小学校第1学年担任(1名以上)および参加を希望する者(各学校2名以上)

内容：

時 程	研 修 内 容
10:10 }	<講話I> 『飯塚市立小学校MIM2ndステージ指導を振り返って』
12:00	飯塚市立飯塚小学校 通級指導教室担当 教諭 杉本 陽子 氏
	<説明> 『MIM指導事例集の作成について』
	飯塚市教育委員会学校教育課 指導主事 石橋 格

	<協議Ⅰ> 『各学校におけるこれまでの MIM 指導教材について』 ※ グループ協議 (異なる学校の先生同士で)
13:00 }	<協議Ⅱ> 『各学校におけるこれまでの MIM 指導教材について』 ※ 全体協議
15:20	<講話Ⅱ・演習> 『3rd ステージ指導について』 飯塚市立飯塚小学校 通級指導教室担当 教諭 杉本 陽子 氏
15:30 }	<協議Ⅲ> 『3rd ステージ指導を充実したものにするために』 ① グループ協議 (同じ学校の先生同士で)
16:50	② 全体協議

④ 第4回飯塚市立小学校 MIM 指導者研修会

実施日時：平成 25 年 2 月 27 日 (水)

対象者：第 1 学年担任 (1 名以上) および参加を希望する者

内容：

時 程	研 修 内 容
14:10 }	<実践発表> 『校内推進体制について』 飯塚市立蓮台寺小学校 教頭 臼井 美津代 氏
15:05	『毎日こつこつと』 飯塚市立若菜小学校 教諭 柴田 なつき 氏
	『1 年担任と連携して取り組んだこと』 飯塚市立楽市小学校 教諭 樋口 朱美 氏
15:05 }	<講評・講話> 飯塚市立飯塚小学校 通級指導教室担当 教諭 杉本 陽子 氏
15:25	国立特別支援教育総合研究所 主任研究員 海津 亜希子 氏
15:30 }	<講話> 『本年度の MIM 指導および今後の MIM 指導について』
16:50	国立特別支援教育総合研究所 主任研究員 海津 亜希子 氏

(3) 平成 25 年度

① 第 1 回飯塚市立小学校 MIM 指導者研修会

実施日時：平成 25 年 4 月 23 日 (火)

対象者：飯塚市立小学校教頭で前年度第 1 回飯塚市立小学校 MIM 指導者研修会  
に参加していない者、第 1 学年担任および希望者 (各学校 2 名以上)

内容：

時 程	研 修 内 容
14:10 }	<講話> 『MIM をはじめよう』 飯塚市立飯塚小学校 通級指導教室担当 教諭 杉本 陽子 氏
15:15	

15:25 }	<演習> 『MIM の指導の実際 (アセスメントと 1st ステージ指導) 』 飯塚市立飯塚小学校 通級指導教室担当 教諭 杉本 陽子 氏
16:40	

② 第2回飯塚市立小学校 MIM 指導者研修会

日時：平成 25 年 8 月 8 日 (水)

対象者：飯塚市立小学校第 1 学年担任 (1 名以上) および参加を希望する者  
(各学校 2 名以上)

内容：

時 程	研 修 内 容
10:10 }	<講話> 『通常の学級における多層指導モデル MIM』 ～1 学期 1st ステージ指導を振り返って 2 学期につなげよう～ 国立特別支援教育総合研究所 主任研究員 海津亜希子 氏
12:00	
13:00 }	<演習> 『2nd ステージの具体的な指導 』 国立特別支援教育総合研究所 主任研究員 海津亜希子 氏 飯塚市立飯塚小学校 通級指導教室担当 教諭 杉本 陽子 氏
14:30	
14:45 }	<協議> (1) 『MIM をしてきて感じたことを共有しよう：2 学期に向けて』 (2) 『 今日の研修を受け， 2 学期からの計画を立てよう 』
16:50	

③ 第3回飯塚市立小学校 MIM 指導者研修会

日時：平成 26 年 1 月 7 日 (月)

対象者：飯塚市立小学校第 1 学年担任 (1 名以上) および MIM 指導に関わっている者 (各学校 2 名以上)

内容：

時 程	研 修 内 容
10:10 }	<講話 I > 『飯塚市立小学校 MIM 2nd ステージ指導を振り返って』 飯塚市立飯塚小学校 通級指導教室担当 教諭 杉本 陽子 氏
	<説明> 『MIM 指導事例集の作成について』 飯塚市教育委員会学校教育課 指導主事 石橋 格
	<協議 I > 『各学校におけるこれまでの MIM 指導教材について』 ※ グループ協議 (異なる学校の先生同士で)
13:00 }	<協議 II > 『各学校におけるこれまでの MIM 指導教材について』 ※ 全体協議
15:20	<講話 II・演習> 『3rd ステージ指導について』 飯塚市立飯塚小学校 通級指導教室担当 教諭 杉本 陽子 氏
15:30 }	<協議 III > 『3rd ステージ指導を充実したものにするために』 ① グループ協議 (同じ学校の先生同士で) ② 全体協議
16:50	

④ 第 4 回飯塚市立小学校 MIM 指導者研修会

日時：平成 26 年 2 月 27 日（水）

対象者：第 1 学年担任（1 名以上）および飯塚市立小学校で希望する者（各学校  
2 名以上）

内容：

時 程	研 修 内 容
14:10 }	<実践発表> 『校内推進体制について』 飯塚市立蓮台寺小学校 教頭 臼井 美津代 氏
15:05	『毎日こつこつと』 飯塚市立若菜小学校 教諭 柴田 なつき 氏
	『1 年担任と連携して取り組んだこと』 飯塚市立楽市小学校 教諭 樋口 朱美 氏
15:05 }	<講評・講話> 飯塚市立飯塚小学校 通級指導教室担当 教諭 杉本 陽子 氏
15:25	国立特別支援教育総合研究所 主任研究員 海津 亜希子 氏
15:30 }	<講話> 『本年度の MIM 指導および今後の MIM 指導について』
16:50	国立特別支援教育総合研究所 主任研究員 海津 亜希子 氏

(4) 平成 26 年度

① 第 1 回飯塚市立小学校 MIM 指導者研修会

実施日時：平成 26 年 4 月 21 日（月）

対象者：飯塚市立小学校教頭で前年度（平成 25 年度）の第 1 回飯塚市立小学校  
MIM 指導者研修会に参加していない者，第 1 学年担任および MIM に関  
わる希望者（各学校 2 名以上）

内容：

時 程	研 修 内 容
14:05 }	<講話> 『通常の学級における多層指導モデル MIM の指導の有効性』 飯塚市立飯塚小学校 通級指導教室担当 教諭 杉本 陽子 氏
15:05	
15:15 }	<演習> 『MIM の指導の実際（アセスメントと 1st ステージ指導）』
16:35	飯塚市立飯塚小学校 通級指導教室担当 教諭 杉本 陽子 氏

参加者の声：

- ・ MIM については全市的に取り組んでいることや簡単な概念は知っていたが，今回の研修で，読みの苦手な子にとどまらず，全ての子どもに有効な手立てになると感じた。
- ・ MIM を該当の学年のみの取組にすることなく，研修で取り上げ，全職員の共通理解を深める必要がある。

- ・教頭としてMIMの取組の学校体制をつくり、児童の実態を確実に把握し、有効な手立てを考えながら組織的に取り組んでいきたい。
- ・初めての参加であったが、丁寧に説明していただきわかりやすかった。どの子ども「分かった」「楽しかった」と言えるように進めていきたい。
- ・分科会で経験のある先生のお話を聞いて、MIMの進め方や時間など具体的なことが分かった。
- ・小学校の取組を学ぶことができ、とても勉強になった。これから保育園でもできることを探して小学校につなげていこうと思った。

② 第2回飯塚市立小学校MIM指導者研修会

実施日時：平成26年7月23日（水）

対象者：飯塚市立小学校第1学年担任（1名以上）および参加を希望するMIMに関わる者（各学校2名以上）

内容：

時 程	研 修 内 容
10:10 }	<講話> ※Web研修 『多層指導モデルMIM 2ndステージ指導に焦点を当てて』 国立特別支援教育総合研究所 主任研究員 海津亜希子 氏
11:10	
11:10 }	<協議> 「1学期の指導の振り返り」 飯塚市立飯塚小学校 通級指導教室担当 教諭 杉本 陽子 氏
12:00	
13:00 }	<講話・演習> 「2ndステージの具体的な指導」 飯塚市立飯塚小学校 教諭 通級指導教室担当 杉本 陽子 氏
14:30	
14:45 }	<講話・協議> (1) 「3rdステージの具体的な指導」 (2) 「感じたことを共有しよう：2学期に向けて計画を立てよう」 飯塚市立飯塚小学校 通級指導教室担当 教諭 杉本 陽子 氏
16:45	

参加者の声：

- ・海津先生の個別の配慮計画の説明は、疑問に思っていたことやわからなかったことが分かり、スッキリした。
- ・1学期にやり残してしまった感じがしてとても反省している。2学期に向けてどうしたらいいか少し見えてきたような気がしているので、担任の先生方ともう一度計画を見直して支援を必要とする子どもたちへの手立てを考えたい。
- ・1stステージに入るまでに時間がかかり、2学期も1stステージの取組から行う計画を立てている。今回の研修で2ndステージの取組の大切さを実感した。
- ・苦手な子どもたちに対する配慮がとてもすごいなあと思った。ゲームをしながら学べて、私は2年生担任であるが、2年生でもチャレンジしてみたい。
- ・1学期はバタバタの中で子どもの気持ちや困り感を考えずにやってしまったが、子どもの気持ちによりそって、できた喜びを味わわせていきたい。この夏休みに教材をたくさん準備して2学期を迎えたい。

③ 第3回飯塚市立小学校MIM指導者研修会

実施日時：平成27年2月20日（金）

対象者：第1学年担任およびMIMに関わる希望者（各学校1名以上）

内容：

時 程	研 修 内 容
14:10 }	<実践発表> 「潤野小学校のMIMの取組」 飯塚市立潤野小学校 教頭 松尾史朗 氏 「目尾小学校のMIMの取組」 飯塚市立目尾小学校 指導方法工夫改善担当 伊藤朋子 氏 「高田小学校のMIMの取組」 飯塚市立高田小学校 1年担任 近藤照代 氏
15:10	
13:00 }	<ブロック協議> 「今年度のMIM指導の成果と課題」 「来年度に向けてやっておくこと、伝えるべきこと」 「来年度の計画について」 飯塚市教育委員会学校教育課 指導主事 合田 賢治
15:20	

参加者の声：

- ・実践発表は様々な視点からの取組で、とても参考になった。担任だけではすべてのステージの子どもたちへ読みの力をつけることは難しいと、どの発表でもたくさん先生が関わっている様子を見て思った。
- ・他校の実践に学ぶ機会があってよかった。自分が難しいなと思っていたことは同じように他校でも悩みであることが分かり、少しだけホッとした。校内の体制を作っていくのが本当に大変である。
- ・ブロック協議では、他校の具体的な取組をうかがうことができた。まずは教材づくりと効果の検証をブロックとして取り組む方向で引継ぎたい。
- ・このMIM指導者研修会に毎回参加して思うことであるが、どの学校も素晴らしい取組をされている。前回一年生を担当し、12月の研修会后、すごく焦って3学期に取り組みを強化したことを覚えている。研修会に参加し、他校の実践を知ることが指導していく上で大切だと思う。
- ・今回のブロック協議はとても有効だった。学校間の交流はもちろんだが、ブロックが同じということで連帯感のようなものがあつた。また、各学校での取組も、間近でお聞きすることができ、質問も気軽にできてよかった。

(5) 研修に関する成果と課題

平成26年度は、年間を通じて3回の研修を組んだが、実施日が各学校の学校行事や他の研修と重複するなどして、1年生担任の継続した参加ができなかった。しかし、1年担任以外の参加が得られたため、MIMの理解を広めることにつながったのは良かった。

本年度は、文部科学省委託の事業として「飯塚市発達障がい支援アドバイザーの活用や関係機関との連携」、「ブロック研修会」を計画していたが、各ブロックでの研修会の自主的開催までには至らなかった。そのため、第3回の指導者研修会の後半にブロック研修会を位置付けた。そうすることで今後の開催につなげることができた。ま

た、飯塚市発達障がい支援アドバイザーによる各ブロックでの研修会についても、今後の大まかな計画の中に設定することができた。

## 5 MIM に関する事業についての現時点での成果

本市では、平成 23 年度から国立特別支援教育総合研究所主任研究員 海津亜希子氏の研究との連携の下、市内全小学校において MIM を推進してきた。これまでの取組により、下記の表 1 の通り子どもたちの「読みの力」の向上に指導の成果が見られた。なお、NRT 学力検査は 2 年生で実施されるため、平成 24 年度の 2 年生が平成 23 年度の 1 年生、つまり MIM 実施初年度の児童にあたる。特に、国語の偏差値、読む力が向上しているのがわかる。

表 1 飯塚市にみられる「読みの力」の向上

第2学年 NRT学力検査結果		23年4月 (MIM実施前)	24年4月 (MIM1年目)	25年4月 (MIM2年目)	26年4月 (MIM3年目)
国語(偏差値)		52.5	53.5	53.5	54.4
全国比	話す聞く	105	107	109	110
	書く	108	106	106	108
	読む	108	113	113	115
	言語事項	106	109	108	112

また、2 学期より発達障がい支援アドバイザーによる各小学校への巡回指導において、授業参観および指導助言を行った。その結果、3rd ステージの児童の割合が 30% 超えている学級が、5 月に 44 クラス中 39 クラスあったのに対し、12 月には 5 クラスにまで減っている。

本市では、4 年間の取組の中で学校の指導体制を整備し、学習面で困難を示す児童生徒に対して早期支援や個に応じた指導を行うことによって、子どもたちの「読みの力」の向上に成果が見られたと考える。これは、全小学校の MIM 指導者を対象に、本市教育委員会が研修会を開催し、海津氏を招聘し直接指導を受けながら取り組んできたことが大きな要因であると考えられる。さらに、研修会では、本市において MIM の実践知見を豊富に積んできた教員による指導・助言、各小学校が指導の成果と課題を交流する機会を設けることにより、効果的な指導が全市的に広まっている。

## 6 MIM に関する事業についての現時点での課題

- (1) MIM の取組実施状況について各小学校にばらつきがあり、全ての学校で同じレベルの充実した取組までには至っていない。
- (2) MIM-PM の処理については、実施後、教育委員会が集計処理を行い、完了後、各学校に結果を配付するようにしている。しかし、市内の 1 年生のすべての得点入力を一人の職員で行っているため、速やかにアセスメント結果および個別の配慮計画を返送できていない。そのため、個別の配慮計画に沿った支援を開始するまでにタイムラグが生じてしまっている。各学校が各自で集計処理を行うことで即時支援ができるような方向が望ましい。
- (3) ブロック協議会・ブロック研修会については、2 学期当初に校長会議で連絡達示をしているが自主的な開催はまだできていない。



- (4) 市の取組としての関係機関との連携については、運営委員会で様々な専門家から意見をいただくことはできているが、学校や子どもたちに直接関わる具体的な取組へと還元できるまでには至っていない。

## 7 MIM の事業を進めるにあたって期待すること

- (1) MIM の実践が広まることを通して、今までは単に知的理解が遅いと捉えられていた子どもたちへの支援のあり方を、それぞれの子どもたちの教育的ニーズを丁寧に捉えた支援のあり方へと変換できるようになること。
- (2) 子どもたちを学校全体で支援していこうとする体制づくりを構築すること。
- (3) MIM のパッケージをそのまま活用するにとどまらず、それぞれの教員が子どもたちに合った教材開発に発展すること。
- (4) ブロック協議・ブロック研修会を通して実践を交流することにより、教材や指導方法の共有化を図ること。

## 8 MIM への要望

MIM-PM アセスメントについて、すべての担任が簡単に入力処理できれば、各自で処理し、即支援に活かそうとするようになる。現在のシートは普通のエクセルシートで、入力ミスをするとう当然結果に不具合が出て、どこをどのように修正すればよいのかが分かりにくい。また、入力の間違ひにも気づきにくくなっている。ユニバーサルデザインを取り入れた入力シートにしていただけるとありがたい。

## 9 今後 MIM に関する事業を進めようとしている自治体へのアドバイス・メッセージ

- (1) 担任が「させられている」という感覚で MIM 指導に取り組めば、MIM-PM の結果に明らかに子どもたちの力が発揮されていない姿が現れる。MIM について全ての教員が正しく理解し、子どもたちの読みの力を伸ばすということを共通理解して取り組む必要がある。
- (2) MIM の指導場面を見ることなく、いきなり採り入れることは難しい。必ず先進的に取り入れている学校の授業場面や実践に学ぶことが必要。
- (3) 教材作りも含めて、担任のみに任せるのではなく、学校全体での取組として研修会を実施し、1年担任だけでなく、他学年、近接学年、指導方法工夫改善担当、管理職など校内全体として MIM を理解することが大切である。
- (4) MIM-PM の結果処理については、結果を即時支援に活かせるようにするために、各学校でできるような入力処理の研修を最初に行っておくべきである。

### \*資料

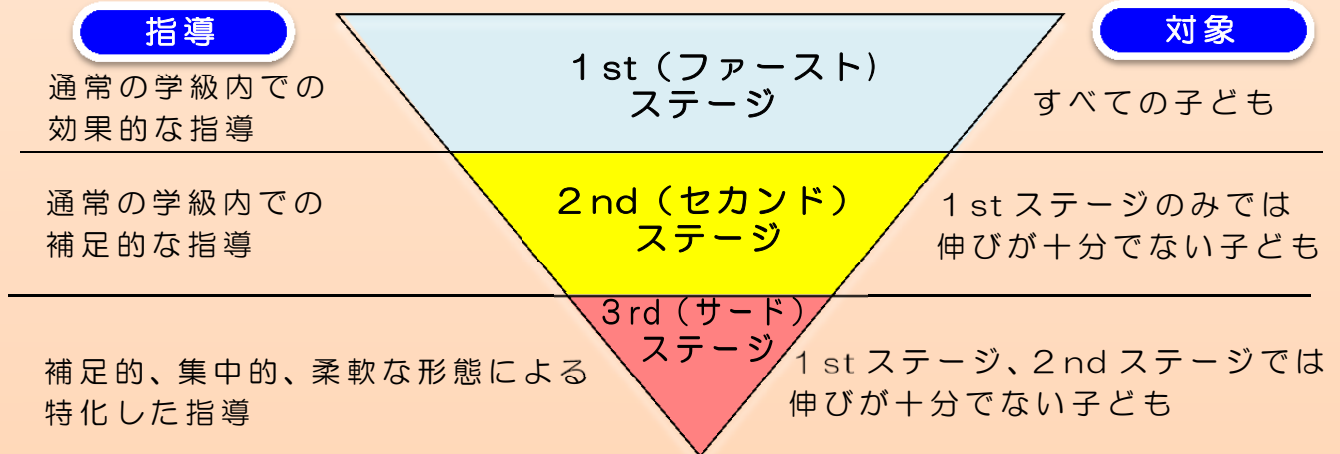
資料1：年度初めに各学校が保護者への理解啓発用に配布する MIM の説明

資料2：市民向けに配布された「飯塚市が進める早期支援教育」に関する説明

# 多層指導モデルMIMってなあに？

**MIM** (Multilayer Instruction Model) とは、全体から個へ、効果的な指導をすみずみまで届けるシステムです。

飯塚市では、全小学校第1学年にMIMを取り入れ、学習面、特に「読みの力」に関して特別な教育的ニーズのある子どもが理解しやすいよう配慮した授業を行っています。



MIMの指導は、上記のように3つのステージに分かれています。

「きって」や「おとうさん」のように小さい文字や伸ばす音など「特殊音節」を速く正確に読めるように、まず1stステージでは、動作化（拗音や促音に関して手を動かすなど）や視覚化を取り入れた特殊音節の「読み」の全体指導を行います。

2ndステージでは、通常の学級での指導に加え、毎月のチェックテストの結果、理解の伸びが十分でない子どもに対して、通常の学級内で補足的な指導や配慮（座席の配慮、机間指導の重点化、個別や小集団指導など）を実施します。

3rdステージでは、2ndステージによる指導や配慮を実施しても、伸びが見られない子どもに対して、通常の学級の内外において、補足的、集中的に、個に焦点を当てた指導を行います。

【チェックテスト問題例】



- |   |   |   |
|---|---|---|
| ③ | ② | ① |
| き | き | き |
| ゆ | ゆ | ゆ |
| う | う | し |
| し | し | よ |
| ゃ | よ | く |
| く | く |   |

正しいのはどれ？

## MIMの成果

昨年度、定期的実施しているチェックテストの結果では、3rdステージの対象になる児童の割合が、5月には30%を超えている学級が市内全44クラス中39クラスあったのに対し1月は2クラスにまで減っています。

# 飯塚市が進める早期支援教育

## 平成27年度発達障害の可能性のある児童生徒に対する早期支援・教職員の専門性向上事業

小学校第1学年の指導で「きって」や「おとうさん」のように小さい文字や伸ばす音など「特殊音節」を身に付けさせることは重要です。「特殊音節」につまずくと国語の学習のみでなく、他の学習、さらには、日常生活にまで支障をきたすと言われていています。

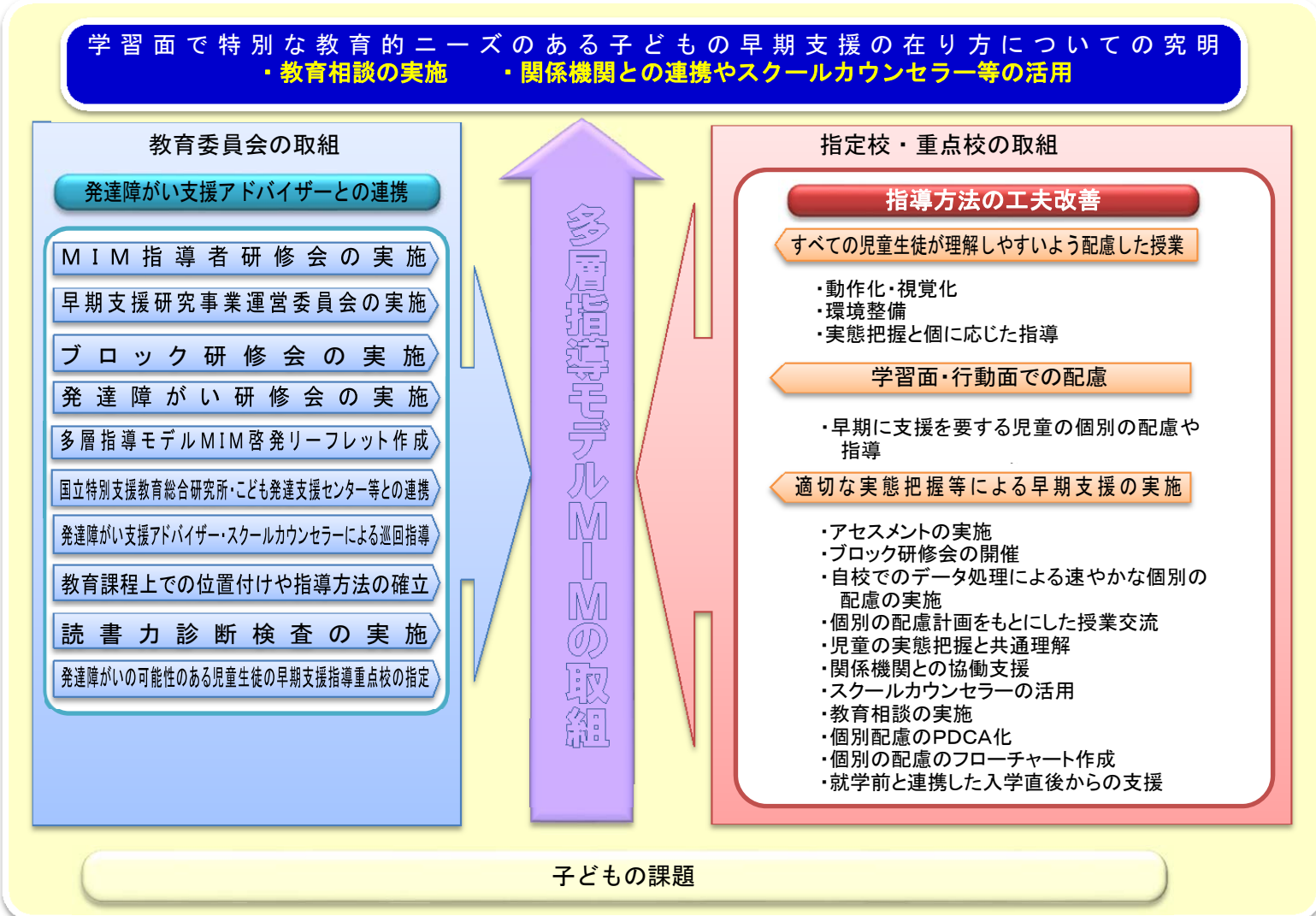


そこで、9年間を見通した早期の段階で、子どもがつまずく前、又はつまずきが深刻化する前に、体を使って表現し、楽しみながら読みの力を育てていくプログラムが、多層指導モデル「MIM」です。飯塚市では、

第2学年 NRT学力検査結果	23年4月 (MIM実施前)	24年4月 (MIM1年目)	25年4月 (MIM2年目)	26年4月 (MIM3年目)	
国語(偏差値)	52.5	53.5	53.5	54.4	
全国比	話す聞く	105	107	109	110
	書く	108	106	106	108
	読む	108	113	113	115
	言語事項	106	109	108	112

MIMの指導を行うことを中心にして、通常の学級において、学習面、特に「読みの力」に関して特別な教育的ニーズのある子どもが理解しやすいよう配慮した授業等、指導方法の工夫改善を行い、効果を上げています。

さらに、発達障がい傾向がある児童に対して、スクールカウンセラーや発達障がい支援アドバイザーによる観察教育相談を実施し、特別な教育的ニーズのある子どもたちに対する早期支援に取り組んでいます。(平成26年度より文部科学省委託)



### 発達障がい研修会

子ども自身や家庭での育て方に問題があるわけでもないのに、学習や行動するときに困っている子どもたちがいます。そんな子どもたちが自分の力を十分発揮できるように、その特性に気づき、正しい理解に基づく適切な支援を周囲の人たちが協同して行うことが大切です。飯塚市では、発達障がいについての理解と認識を深め、保護者・学校・こども園・幼稚園・保育所(園)・児童クラブ・地域・行政・関係機関など、それぞれが連携した指導の充実に役立てるために、毎年秋に関係職員及び市民の方々を対象に「発達障がい研修会」を開催しています。